

多文化共生のまち福島

推進検討委員会

【第3回会議】

日時 令和2年2月21日(金) 午後1時30分～
場所 市役所本庁舎4階 庁議室

目次

1. 第2回検討委員会の振り返り P1～P4
2. その他のご意見について P5～P9
3. 在留外国人アンケート調査結果について P10
4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について P11～P12
5. 生活ガイドブックの見直し案について P13～P14
6. 事務連絡 P15

1. 第2回検討委員会の振り返り(その1)

【委員の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針について

- ① **多言語電話通訳サービス(三者通訳)**は、上手く活用できれば有効であり、指針の中に掲載することも良いのではないか。
- ② **Wi-Fi**については、単にスポットを増やす取組みだけでなく、通信速度の向上やアクセスの容易さも、実用性を考える上で大切。
- ③ 子ども間の意思疎通よりも、その**保護者・学校間の意思疎通**の方が難しいため、これらをつなぐSSW(スクールソーシャルワーカー)などの仕組みが必要である。

1. 第2回検討委員会の振り返り(その2)

【委員の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針について

- ④ 外国人支援情報について、案内してくれる機関もあるが、みんなでその情報を共有するところまでは至っていない。
- ⑤ 翻訳機器に過剰に頼らず、むしろ意思疎通の努力の積み重ねの方が多文化共生社会にとって大事なのではないか。
- ⑥ 多文化共生を考えるのであれば、例えば外国人でも避難が迅速に行えるような、命を守る取組みを一番に考えるべき。

1. 第2回検討委員会の振り返り(その3)

【委員の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針について

- ⑦ 核になるような視点が指針にあって、市民向けで分かりやすく、具体的な行動がイメージできるものであるとよい。
- ⑧ 外国人を受け入れる側の住民も、多国籍の方が増えることで戸惑いを感じると思うため、それらに対応する視点があるとよい。
- ⑨ 一人で日本に来ている外国人が、「福島市は安心して暮らせる」というメッセージが指針にもあげられるとよい。

1. 第2回検討委員会の振り返り(その4)

【委員の皆さまからのご意見】

(2) 生活ガイドブックについて

- ① 表現方法については、その国の人が見ても一目で理解できるものとし、短い文章で文字ポイントを大きくするなどの工夫が必要。
- ② 本当に伝えたい情報のみ掲載とし、リンク情報の掲載で補完するような構成にするとよい。

2. その他のご意見について (その1)

【委員や市民等の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連

- ① 基本指針は、短期的に達成可能なものと長期的に取り組む必要のあるものと様々。いつぐらいを目途に何を実行するのか、分かりやすくするとよい。
- ② 「2基本的な考え方」の中にある「心のバリアフリー」の文言は、大切なキーワードになると考える。
- ③ 直接外国人との関わりがない市民にとっては、他人事と捉えられるため、多文化共生の意義を伝えていくことが欠かせない。

2. その他のご意見について (その2)

【委員や市民等の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連

- ④ 基本指針1(情報共有・伝達)は、短期滞在者も意識した視点で作成するとよい。
- ⑤ 基本指針2(コミュニケーション)は、最低限の会話が可能となる英語力を身に付けようという意識づけになる指針であるとよい。
- ⑥ 基本指針2(コミュニケーション)と基本指針4(相互理解)は、内容が重複しているように感じる。

2. その他のご意見について (その3)

【委員や市民等の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連

- ⑦ 基本指針2(コミュニケーション)で、日本語教育の充実があげられ、**保護者支援が明確**になったことはよい。

2. その他のご意見について (その4)

【委員や市民等の皆さまからのご意見】

(2) 生活ガイドブック関連

- ① 生活ガイドブックは、紙での配付にこだわらず、使い勝手を重視して、**デジタル情報での提供**も考えた方がよい。
- ② 生活ガイドブックのデジタル化の際は、データ量が大きいPDF版だけではなく、**スマートフォンユーザーも意識した掲載方式**を検討するとよい。
- ③ (日本人)配偶者が亡くなったときなど、暮らしの中で起こり得るガイド項目もあるとよい。

2. その他のご意見について (その5)

【委員や市民等の皆さまからのご意見】

(2) 生活ガイドブック関連

- ④ 読んでもらえるものにするためにも、ピクトグラムの活用など、できるだけ文量を減らす工夫が必要と感じる。
- ⑤ 特定の地域に限定した情報ではなく、日本全国で共通する情報であれば、他のガイドブックを紹介するなどの方法もある。
- ⑥ 公的機関での手続きや緊急性、地域の独自情報など、福島に来た時に最初に知って欲しい情報をメインに掲載することが望ましい。

3. 在留外国人アンケート調査結果について

(1) 県・市共同による外国人アンケート調査結果

※詳細は別紙のとおり

4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について

(その1)

【まとめ】

※同指針(案)の詳細イメージは、別添資料のとおり

① 指針の構成を

『**推進指針**』 + 『**推進アクションガイド**』 + 『**推進パッケージ**』
とし、オール福島で多文化共生社会の実現に取り組む。

【説明】

- ・ 今回作成する「指針」は、市が市民や事業者等とともに、多文化共生に取り組んでいくための**取組方針(施策の方向性)**を示したもの。

【斟酌すべき事情】

- ・ 最上位計画である「総合計画(実施計画含む)」との整合
- ・ 総合計画をはじめ各生活分野に関連した既存個別計画などとの計画体系を考慮
- ・ 一方で、市民や事業者等も取り組みやすい**具体的な表現方法の採用**が望ましいため、「推進指針」に合致し、誰にでも分かりやすい表現でまとめた「**推進アクションガイド**」を作成

4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について

(その2)

② 多文化共生の核として本市が目指すべき姿

“**市民一人ひとりがお互いに認め合う、多様性を尊重したまち**”
とし、6つの施策目標を掲げ、多文化共生社会の推進に取り組む。

【説明】

- ・共生社会実現のファーストステップは、受け入れる側と受け入れられる側の相互理解
- ・外国人が自立し、地域社会の一員として躍動することが最終到達地点

③ その他の調整課題

東日本大震災や原子力災害により世界から注目されたまちであるからこそ、**世界中の励み**となり、**目標となるようなまち**を目指すべき。

【説明】

- ・ラグビー日本代表の「ワンチーム」のように、日本人も外国人も様々な海外ルーツを持つ者も、混在して活躍するチーム像を、多文化共生のイメージとして具象化できないか。

5. 生活ガイドブックの見直し案について(その1)

【まとめ】

これまでの検討委員会での議論や、各委員、市民等からのご意見をもとに、次の方針によりガイドブックを調整する。

(※見直し後のイメージは、別添資料のとおり)

- ① **文量**は極力少なくし、**視認性**に優れ容易に情報検索
 - ➔ イラスト・図・アイコンを使用
 - ➔ 生活関連情報アプリ(携帯型端末アプリ)の紹介

- ② **その国の人が見ても理解**できる表示
 - ➔ 対応言語をその言語で用いられる文字で記載

5. 生活ガイドブックの見直し案について(その2)

③ 掲載順序の見直し

- ➡ より重要度の高い「緊急通報」・「災害」に関する情報や、市が伝えたい情報を優先的に配置

④ 掲載内容・情報提供方法の継続的見直し

- ➡ ガイドブックの誌面に掲載できる情報には限りがあるため、適宜、別冊情報として追加
- ➡ 在住外国人の知りたい情報(ニーズ)に合わせ、掲載情報を定期的に見直し
- ➡ 求める情報が求める時に得られるように、情報のデジタル化や、外国人がデジタル情報を効率的に収集できる手法を検討

6. 事務連絡

- ※ 次回の検討委員会(第4回:最終回)は、
日 時 4月下旬～5月下旬までの期間で、別に調整
場 所 市役所本庁舎4階 庁議室 での開催を予定しています。

大変恐縮ですが、3月11日(水)を目途に事務局まで、ご意見をお寄せください。